

# 平成30年度

## 第4回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日 時 : 平成31年3月27日(水)  
13:00~15:00

場 所 : 関東森林管理局  
東京事務所 会議室

### 次 第

1. 開 会

2. 議 事

(1) 木材の需給動向について

- ① 木材の需給、価格等の動向
- ② 関東局における国有林材の供給状況

(2) 国有林材供給調整の必要性について(審議)

3. 閉 会

平成30年度 第4回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一
福島県森林組合連合会 常務理事	遠藤 誠寿
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 廣興
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志
有限会社平子商店 専務	平子 美穂子
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	楡井 真一
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究コーディネーター(地域イノベーション推進担当)	堀 靖人

関東森林管理局

官 職	氏 名
森林整備部長	佐藤 肇
資源活用課長	古澤 茂昌
企画官(木材需給対策)	渋谷 英夫
素材供給係長	齋藤 博
供給計画係長	金澤 威一郎

1. 開催日時・場所

平成31年3月27日（水）13:00～15:00（関東森林管理局 東京事務所会議室）

2. 検討結果

需給動向や各委員からの状況報告等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する必要はない。

3. 概要（状況報告等）

（1）需給動向について

- 静岡県では、素材価格は出材増加により下落傾向。製品は保合いが続く。在庫量も適正水準を超える。5月以降、天候や出材疲れにより丸太不足になることを危惧している。
- 福島県では、積雪もなく好天にも恵まれ、出材量は増加傾向にある。素材価格は12月から弱含みで推移、3m柱適材は市日毎に値を下げているが、長期的には保合で推移すると思われる。
- 栃木県では、2月～3月に伐採のピークを迎える。製材工場側も丸太の仕入れに苦戦しなくなり生産量が増加してきたため、スギ柱適材に荷余り感が出始め、昨年の秋口から継続していた高値相場の維持が困難になってきた。特にスギ3m柱適材と3.65～4mの中目材で安値となっている。
- 茨城県では、2月に入り、スギ3m柱適材が12,000円割れとなり、値下がりが危惧されたが、3月に入り僅かな値戻しが見られた。ヒノキ4m土台材は、20,000円台の高値を維持していたが、現在は18,000円台で推移している。今後は、伐採適期を過ぎることから、弱保合で推移すると思われる。
- 群馬県では、製材工場への直送が増加し、共販所への入荷が減少したため、市場価格が安値となっている。丸太価格は例年とあまり変わらず、スギ3m柱適材が10,800円、4m中目材が12,000円で取引されている。

（2）主な意見

- 人手不足が深刻化している中、林業・木材産業界は「働き方改革」の問題の重大性を認識する必要がある。労働災害発生率等の高さからも、日本の林業界の労働環境は先進国としての条件及び職場環境を満たしていないと言える。業界を挙げてこの問題に取り組む必要がある。
- 再造林を進めるにあたり、植栽後の下刈作業が一番の問題となる。今後10年の間に新たな技術を開発し、下刈作業の負担を軽減しない限り、再造林は困難である。現状では、50年で皆伐して再造林をするより、長伐期施業で強度の間伐を実施した方が収益は遥かに多くなる。
- 針葉樹の植林後、保育施業もされずに放置されている保安林が多いが、このまま間伐もせずに放置することで将来どうなるのか非常に気がかりである。
- バイオマス燃料の需要が高まっているので、集運材の作業工程を工夫し端材を販売することにより、バイオマス燃料用に流れているB、C材の丸太に若干の余裕が生まれるのではないかと。